



実践団体・プラン基本情報

必要に応じてセル（表の枠）の高さを調整していただいて構いません。

ただし「**実践団体・プラン基本情報**」全体で**4ページ以内**に収めてください。

実践団体の基本情報

記入日	西暦 2024 年 1 月 19 日（2023 年度のチャレンジプラン）
プラン名	「操南中&防災チャレンジ with `よりそい愛"」
実践団体名	岡山市立操南中学校
代表者名	青木 伸晃
電話番号	0 8 6 - 2 7 7 - 7 2 8 1
メールアドレス	sonanc@city-okayama.ed.jp
実践団体の説明	1947 年創立・生徒数 800 名の公立中学校。教育目標「心豊かな自立した生徒を育てる」ならびに 2021 年度「操南中 生徒会 SDGs 宣言」を踏まえ、地域や関係・専門機関との連携協働を生かした ESD 実践に取り組んでいる。
所属メンバー	(代表)校長：青木 伸晃 (担当)教諭：教諭：大島 悠（防災安全）竹島 潤（教務）
活動の本拠地	岡山県岡山市中区藤崎 1 3 0 - 2 操南中学校区
活動開始時期・結成時期	2 0 2 3 年 4 月
過去の活動履歴・受賞歴	2023 年度環境教育・ESD 実践動画 100 選（環境省） 2022 年度アクサユネスコ防災・減災教育プログラム採択 おかやましんきん SDGs2022 アワードスクール部門入賞 2021 年度内閣府「個別避難計画作成モデル事業」（上藤崎町内会）協力参加

プランの基本情報

プランでの実践主体	1. 学校・教育関係 4. 地域組織 5. 国・地方公共団体 8. ボランティア
プランの運営側の人数（実数）	約 50 人
プランの活動地域	操南中学校区



	中華人民共和国河南省洛陽市
プランの防災教育の対象者	2. 幼児・保育園児・幼稚園児 3. 小学生（低学年） 4. 小学生（中学年） 5. 小学生（高学年） 6. 中学生 7. 高校生 8. 大学生 9. 外国人 10. 教職員・保育士等 11. 保護者・PTA 12. 地域住民 13. 企業・組織 14. 女性 15. 障がい者 16. 支援学校等児童生徒 17. 高齢者 18. 海外 19. 防災関係者
防災教育の対象者の人数（実数）	約 1, 000人
プランが対象とする災害	1. 地震 2. 津波 4. 土砂災害 10. その他（具体的に： ）
プランの活動目的	1. 防災意識を高める 2. 災害を想定した訓練 3. 防災に関する知識を深める 4. 遊び・楽しみの要素を入れた防災 5. 災害を疑似体験 6. 災害に強い地域をつくる 7. 災害対応能力の育成 8. 防災に役立つ資料・材料づくり 9. 防災に関する技術の習得
対象者が身につく知識・技能等	1. 地震・津波・火山災害 3. 災害時に発生する課題・影響 4. 過去の教訓が教える対応策 5. 起こりうる災害の地図等による可視化 6. 平時に行う被害を出さないための備え 7. 災害発生時に身の安全を確保するための行動 8. 災害対応・復旧・復興時の立ち直りに向けた助け合い
プランの活動形態	1. イベント・行事 2. 講習会・学習会・ワークショップ 3. 講演会・シンポジウム 4. 総合的な学習（探求）の時間 5. 教科 6. 特別活動 7. 道徳 8. 学校内の諸活動 9. 放課後の部活道(サークル)等 12. 体験学習 13. 避難・防災訓練
プランでの連携先	1. 学校・教育関係 2. 同窓会組織



	3. 保護者・PTA 4. 町会・自治会 5. 自主防災組織 6. 消防団 7. それ以外の地域組織 8. 国・地方公共団体 9. 公共施設 10. 企業・産業関係 11. ボランティア 12. NPO 13. NGO
実践にかかった金額	30万円未満



プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	・フィールドワークに向けて地域自主防災会の代表と打合せ。	・フィールドワーク実行委員会を結成。	
5月			・地域フィールドワーク
6月			・地域フィールドワーク事後学習
7月		・フィールドワーク実行委員会にて発表準備。	・第1回地域交流会 ・操明学区地域フェスティバル
8月		・公民館にて準備。 (クイズ作成・発表物作成など)	・公民館主催防災行事ボランティア
9月	・ゲスト講師との打合せ。	・神戸研修実行委員会結成。 ・1～3年防災拡大実行委員会結成。	・調べ学習 ・ゲスト講師講話(西日本豪雨災害)
10月	・ゲスト講師との打合せ。 ・外部機関との連携。	・防災キャンプ準備。 ・防災かるたすごろくの購入	・ゲスト講師講話バーチャル研修 (阪神淡路大震災) ・ゲスト講師講話(地域ハザードマップの活用) ・3学区防災交流会(公民館主催) ・防災キャンプ with よりそい愛
11月	・避難訓練に関して専門家からの指導・助言。	・避難訓練に向けた準備	・神戸研修 ・神戸研修事後学習 ・教職員 避難訓練 ・操南・旭操学区の地域フェス
12月		・交流会に向けた準備	・地震・津波想定避難訓練 ・防災サミット2023 SONAN ・防災(楽)習:防災かるたすごろく ・第1回防災オンライン交流会 (大阪府泉南市立西信達中学校) ・第2回地域交流会(操南公民館) ・海外でのプレゼン発表 (中国・河南省洛陽市東昇第二中)
1月		・次年度の取組検討 ・地域協働学校運営協議会への提案	・第2回防災オンライン交流会 (大阪府泉南市立西信達中学校) ・危機管理マニュアル見直し支援コメントの共有



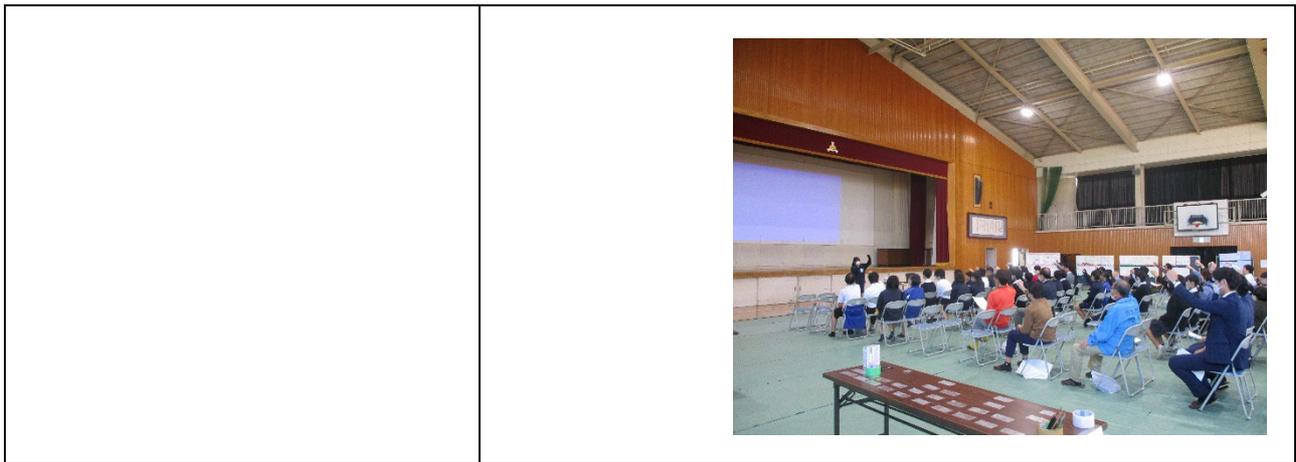
2月		・各種交流会の振り返り	・大学生との防災学習交流会 (岡山大学大学院教育学研究科松多研究室)
3月		・今年度取組の総括・共有	



実践したプランの内容

プラン全体の概要	<p>本プランの主たる取組である「操南中&防災チャレンジ with `よりそい愛"」は、地域住民の方々とともに、防災・減災学習を通して、「わが町・操南」をより持続可能なかたちで創っていくことを目的としている。「つながり・よりそい」活動が本プランの特徴であり、以前から生徒たちが前向きに取り組んでいる SDGs 推進活動や総合学習に加えて、生徒たちの心をさらに動かすような学習体験を地域住民の方々と創出し、多方面へと情報を発信できるように取り組んだ。</p> <p>中学生の積極的な活動を通して、地域で世代を超えたつながりを強化し、学区全体で防災意識を高める機会を提供することができた。</p>
プランの「チャレンジ」の結果	<p>今まで本校で行ってきた防災学習に新規性を取り入れ、地域や社会に還元できるような取り組みを目指した。そこで本校では新たに「防災キャンプ」にチャレンジした。防災キャンプを行う上で、1～3年生を対象に有志生徒を募り、防災拡大実行委員会を立ち上げた。実行委員会では、他学年の代表生徒が集まり、それぞれの学年らしいアイデアを出し合うことができた。当日は、中学生が小学生や地域住民の方々をお招きし、総勢約 90 名で防災について体験的に学ぶことができた。また、当日は、多くの企業や団体にご協力をいただき、防災グッズの展示や AED 体験など幅広い活動を行うことができた。このチャレンジからは、防災についての興味・関心や知識を高めるだけでなく、イベントを企画・運営する上でのリーダー性の育成も行うことができた。</p>





実践内容・方法・成果

1 学期、中学 1 年生では地域との交流を図るために、「操南学区地域フィールドワーク」を行った。地域の名所(お宝)を自転車・徒歩で散策し、地域の方々と地元の「魅力と課題」について情報・意見交換しながら、交流を深めることができた。また、フィールドワークのまとめとして、操南公民館で行われた第 1 回目の「地域交流会」に実行委員である代表生徒が参加し、ここでも地域との連携を高めることができた。学校としては、1 学期に「学校安全実践力向上サポート事業」へ申込をし、危機管理マニュアルに対する助言をいただき、2 学期から本格的に始まる防災学習に向けて教員も意識を高めることができた。

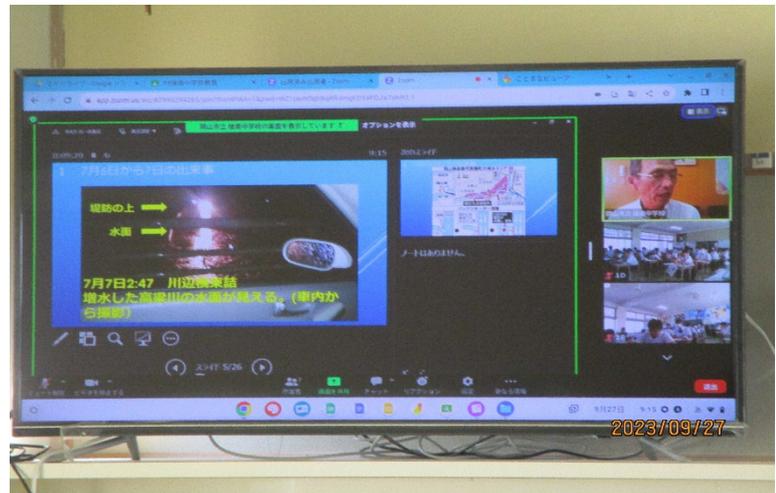
夏休みには、操南公民館主催の小学生を対象とした防災講座が 2 度開催され、1~3 年生の希望生徒が参加をし、ボランティア活動を行った。ここでは、災害時伝言ダイヤル「171」の活用や炊き出し体験、中学生が自ら考えて制作したクイズや活動を通して小学生とともに学びを深めた。





2 学期, 1 年生の総合的な学習の時間を中心に防災学習プログラムを進めた。

9 月・10 月, 阪神淡路大震災・西日本豪雨災害の 2 つの大きな災害について学習をした。阪神淡路大震災については, 【人と防災未来センターリサーチフェロー: 木戸 孝之氏】, 西日本豪雨災害については, 【倉敷市内元小学校長: 横溝 龍一氏】をゲスト講師としてお招きして, 当時の様子や復興までの道のりなどをご講演いただいた。被災された方の声や当時を知る人の声は, とても心に響くものがあり, 生徒たちの防災意識を高めるきっかけとなった。





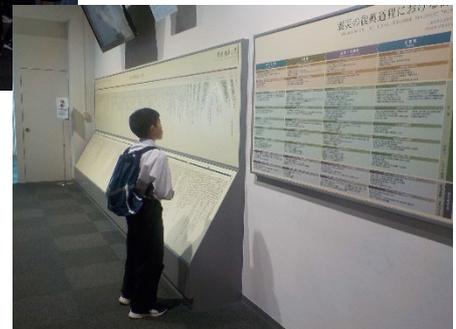
その後、岡山市危機管理室：近藤氏にご講演いただき、操南中学校区の防災について学び、オリジナルハザードマップを作成した。自分の住んでいる地域について理解を深めることで、防災を「自分事」として考えることができ、主体的な学びへとつながった。



10月下旬には、「防災キャンプ with よりそい愛」を本校で開催。50名近くの小中学生・地域住民が参加し、とても充実したイベントとなった。ここでは、1～3年生の防災拡大実行委員会の生徒が主体となってイベントを企画・運営し、防災クイズやAED体験、中学生防災ミニ講座、防災グッズ見学など幅広い防災活動を行い、防災地域全体で防災について考える場・本校での防災に関する取り組みを地域に発信する場となった。参加者からも、「地域全体でもしものに備えて防災意識を高めていきたい」「立派に活躍する中学生の姿を見て元気をもらえた」というお言葉をいただき、防災学習だけでなく、地域とのつながりをより強めるイベントとなった。また、地域だけでなく、このイベントを開催するにあたり、関係機関や企業とも連携することができ、より操南中学校の活動を知ってもらおうきっかけとなった。



11月、これまでの防災学習をふまえて、神戸での現地研修を実施した。復興した現地を自分の目で見て、たくさん
の
ことを感じとることができた。



12月、地震・津波想定での避難訓練を実施した。今回の避難
訓練では、避難経路が一部塞がれてしまうという設定を導入した。これは防災拡大実行委員会の中で出た「避難をする際、何か起きてもしっかり落ち着いて正しい避難をできるようにしたい」という意見から導入したものであり、生徒だけでなく教員も臨機応変に対応することができた。また、今年度も地域の方に参加していただき、ともに訓練を行うことができた。



避難訓練後、1年生は【香川大学：磯打 千雅子博士】をオンラインでお招きし「防災サミット2023 SONA N」を開催した。ここでは、地域の方にも引き続き参加してもらい、学区の防災について意見を交わしながら、今できることをゲスト講師の講演をもとに検討した。オンラインではあったが、積極的に意見を出し合いながら、これまでの防災学習の総括をすることができた。



2・3年生は、「楽しく防災を学ぶ」をコンセプトに「防災(楽)習」を行った。防災かるた・防災すごろくを教材として扱い、楽しく活動をしながら防災への理解を深めた。生徒たちの振り返りからも、「かるたをしながら自然と防災について会話をしていた」「すごろくが進めば進むほど勉強になった」など前向きな言葉が多く、初めての試みではあったが、大きな成果を得ることができた。



2学期末には、操南公民館主催の第2回地域交流会を行い、これまでの取り組みを代表生徒が地域へと発信した。防災かるたの実施、新聞紙スリッパの作成・体験、ハザードマップ作りなど、活動報告だけではなく、多方面から得た知識や知見を地域に還元することができ、充実した交流会となった。





プランにおける工夫：プランを実践する上で、下記について具体的に工夫をしたことはありますか。
該当するものについて具体的な例を挙げながら記入をしてください。

この項目は任意項目であり、全てを埋める必要はありません。当てはまるもののみ記入してください。

<p>1. 【準備段階】<u>運営側の担当者を決める際の工夫</u> 例：役割分担を明確にした</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災・安全指導担当と総合学習担当が連携して役割を明確にした。 ・ 管理職や教務主任と積極的に意見交換を行った。
<p>2. 【準備段階】<u>地域のキーパーソンと連携する際の工夫</u> 例：自治会と連携をした</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館と連携し、地域自主防災会の代表と意見交換を行える環境をつくった。
<p>3. 【準備段階】<u>運営側を組織化する際の工夫</u> 例：協議会を作った</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分掌会を定期的に行い、意思疎通を行った。 ・ データ共有やメール、オンライン打合せなども行った。
<p>4. 【準備段階】<u>対象者や対象地域の範囲を決める際の工夫</u> 例：活動範囲を限定した</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動範囲を学校→地域→社会へとつなげた。 ・ 小学生から高齢者まで広い世代の参加を促した。
<p>5. 【準備段階】<u>準備時間を確保する際の工夫</u> 例：定例の打ち合わせを設けた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員が立ち合い、放課後実行委員会を定期的に行い、準備を進めた。 ・ メールやオンラインでの打ち合わせも行った。
<p>6. 【準備段階】<u>活動場所を確保する際の工夫</u> 例：公民館などを無料で使用した</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館での3学区防災交流会に参加した。
<p>7. 【準備段階】<u>活動資金を確保する際の工夫</u> 例：自治体の助成金に応募した</p>	
<p>8. 【準備段階】<u>知識や情報を収集する際の工夫</u> 例：専門家による勉強会を開いた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岡山市危機管理室や専門家、専門機関とつながり、定期的に情報交換や指導・助言をいただけるようにした。
<p>9. 【準備段階】<u>教育・訓練プログラムや教材を作成する際の工夫</u> 例：webサイトを引用した</p>	



<p>10. 【実行段階】<u>経験豊富なアドバイザーを確保する際の工夫</u> 例：実行委員に助言を求めた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山市危機管理室や専門家，専門機関とつながり，定期的に情報交換や指導・助言をいただけるようにした。
<p>11. 【実行段階】<u>地域の理解を得て関係機関と連携する際の工夫</u> 例：行政・自治会等と共催した</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連合町内会や地域自主防災会と協力実施した。 ・ 地域主催の防災教室や各学区の地域フェスティバル等に参加し、ノウハウやヒントを得た。
<p>12. 【実行段階】<u>活動時間を確保する際の工夫</u> 例：総合学習の時間に実施した</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主に1年生総合学習の時間と放課後等に実施した。 ・ 学校全体の行事として、休日の体育館を確保しイベントを開催した。
<p>13. 【実行段階】<u>活動経費をなるべく抑える際の工夫</u> 例：必要物品を消防署から借りた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岡山市危機管理室の協力を得て、防災グッズを借りた。 ・ 関係機関の協力を得て、かるたやすごろくなどの教材・研修用のAED機器などを購入／借用した。
<p>14. 【実行段階】<u>他の実践団体と交流する際の工夫</u> 例：中間報告会でプログラムを紹介してもらい共有した</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間報告会でつながることができた他の実践団体(県外の中学校)とオンラインでの交流会を定期的実施できた。
<p>15. 【継続段階】<u>後任者を育成する際の工夫</u> 例：若手を入れた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 役職等関係なく、教員全体で協力してプログラムを進めた。
<p>16. 【継続段階】<u>活動で得られた知識・経験を、かたちにまとめる際の工夫</u> 例：引き継ぎ書を作った</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 概要、行程、ワークシート、記録写真などを共有フォルダのデータ保存により引き継げるようにした。
<p>17. 【継続段階】<u>活動の成果を外部に発信する際の工夫</u> 例：webサイトで発信した</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館での地域交流会を定期的に行った。 ・ 海外の交流協定校でプレゼン発表を行った。
<p>18. 【継続段階】<u>活動内容を見直す際の工夫</u> 例：振り返りの会を開催した</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動事後は、生徒の振り返りを確認し、成果と課題を検討するようにした。 ・ 教育課程検討に係り、分掌会を行った。



今後の活動予定・今後の展開	本プランのテーマが防災学習を通した「つながり合い・よりそい合い」であり、活動を行う上で、多方面の関係機関や地域住民とつながり、よりそい合うことができた。地域の方からは、「中学生が地域のことを考えて行動してくれているので、大変嬉しい」という言葉をいただき、中学生も非常にやりがいを感じている。今後は地域学校協働活動の一つに位置付け、本校オリジナルの防災・減災プログラムをより持続可能なものとする。この活動を通して、地域や社会との絆を深め、様々なこと・ものに触れることで、自ら課題をもって主体的に取り組める生徒を育成していきたい。
---------------	---

この項目は任意項目です。当てはまるものがあれば記入してください。

その他（PRポイントなど）	公立の大規模中学校が多様な連携・協働により、実践に努めたこと。
---------------	---------------------------------